

水の特別賞

地球の干ばつ

私には毎夏楽しみにしている事がある。それは川遊びだ。親戚の家族と集まり魚釣りをするのが毎年の恒例行事である。しかし去年の夏、川に藻が生え川底が見えるほど水が少なくなり魚の魚群も見当たらなくなっていた。仕方なく魚釣りを諦め、川エビやドジョウを探すことにした。しかしどれだけ探し回っても見つからなく、そもそも生き物がいない。私はこの川に大きな思い入れがあったので、こんな姿になっているとても悲しい気持ちになった。

この現象について調べてみると、この川だけに起こっている現象ではなく、地球全体で起こっている地球規模の現象だと分かった。海外では川の水がなくなる、いわゆる干ばつが起こることで魚が大量死し人々の暮らしに深刻な被害を与えたりトウモロコシ、大豆などの農作物にも被害を与えていることが分かった。日本も例外ではない。世界的に見ると水に恵まれている国だが近年では毎年どこかで干ばつが発生している。

日本で特に被害が大きかったのは一九九四年に起こった、「平成の大干ばつ」だ。その年は春から日本各地で少雨の傾向が続き、梅雨の時期も例年と比べ半分以下の降水量だった。また太平洋高気圧で覆われて暑い日が続きさまざまな地点で観測史上一位の最高気温を記録した。このような異常気象により、ダムの水が少なくなり長期間断水が続いた。地方によっては約一年間断水が続いた所もあったらしい。人だけでなく農作物にも被害が出て、果樹や米が不作になったりもした。

水が少しでも少なくなるだけで沢山の人や農作物に深刻な被害を与えてしまう。このままではいつか私の思い出の川でも干ばつが起きてしまうかもしれない。私は干ばつ問題について少しでも改善できたいと思う改善策を考えてみた。それは森林の再生だ。木は根を使って水分を吸収し土壌の水分を保持する役割を担っている。そんな森林が減少すると、土壌が乾燥しやすくなり水分が蒸発し、結果干ばつにつながってし

飯能市立美杉台中学校 三年 小林 愛奈

まう。なので森林を植え再生していくことで干ばつ改善につながると思った。しかしこれは自分一人の意思で実現できることではない。なので自分でもできる干ばつ改善をいくつか考えてみた。一つ目は節水をして水資源を大切に思うことだ。実際自分はシャワーを浴びている時に水が出しっぱなしの時があると感じる。なのでこまめに水道を閉めることが大切だ。二つ目は干ばつについての興味を持つことだ。興味を持つことだけでも今の現状を知ることができ自分達でできる事は何かと考えることができると思う。環境学習への参加やボランティアの参加など、行動に移すことも非常に大切だ。

これらのことは一人の協力だけでは意味がなく、一人一人が水資源を大切に思う気持ちが大切だと思う。水を大切にすることは未来の地球を守るためにも必要なことである。